

中曾根訪韓-訪米の意味するもの



勝利争闘ジェット塚三里 / 粉碎粉革行・調臨

日米韓軍事一体化をテコに、独自の軍大化改憲へと突進する中曾根

反動中曾根が、本日一月十七日、訪米に飛び立つ。これに先だち、政府は83年度予算での「防衛予算大巾突出」を最終確定し、又十四日には「米国への軍事技術供与」を決定した。そればかりではない。十一日には急拠韓国に飛び、史上初の日韓首脳会談を行い、侵略意図むき出しの「40億ドル援助」と「共同声明」をうち上げた。

83年が年明けてまだ半月、内閣誕生後まだ一ヶ月半にしかならない間に、これまで歴代内閣のもとで一定のワクとされていた事がらを公然と自らとりはらって、かくも重大な攻撃を次つぎと強行し続けている超反動中曾根内閣の進んでいる道こそ、最も危険で最も凶暴な、軍事大国化・侵略・戦争・生活破壊と暗黒警察支配への一大エスカレーションである。

1.11 訪韓

「日韓新時代」「40億ドル軍事援助」をもって、朝鮮侵略を一挙にエスカレートさせた 中曾根

そもそも第一に、中曾根が一月十七日の訪米に先だって急拠韓国に飛び(日本の首相としては実質的に史上初の公式訪問)初めての首脳会談「日韓共同声明」を発したこと自体、実に重大な朝鮮侵略のエスカレーションを意味している。一九八〇年五月、光州朝鮮人民の正義の決起を銃剣と戦車で押し殺して数千人の人民虐殺の血の海の上に軍事支配を続けている世界最凶悪の全斗煥と手を結び、戦前の植民地侵略統治、戦後の侵略、近くは金大中氏事件、教科書問題等々あらゆる侵略と差別の蛮行の歴史事実を居直り、これを「日韓新時代の幕あけ」とうそぶいていること自体を断じて許すことはできない。「日韓新時代」とは、より一層露骨な朝鮮侵略への宣言に他ならない。

第二に、「第二の日韓条約」と弾効・批難されている共同声明は、「朝鮮半島における平和と安定の維持は日本を含む東アジアの平和と安定にとって緊要」「韓国の防衛努力を高く評価」を公然とうたい、「38度線」日本生命線。日韓(米)による共同防衛「構想をかかげるものであり、極めて重大な朝鮮侵略-日米韓軍事一体化構想への数段のエスカレートを意味している。この二月には朝鮮半島での核使用も含む全面戦争を想定した史上最大規模の米韓合同軍事演習

一、日韓両国は自由と民主主義と、共通の理念を追求する隣邦。中曾根首相訪韓は、国交正常化に次ぐ重要な里程碑。

一、両国の新次元の善隣友好関係を一歩前進させる。

一、朝鮮半島の平和と安定を維持し、東アジアの平和と安定に緊要な役割を担う。

一、首脳は、南北対話努力を支持し、韓国の防衛努力を高く評価する。

一、首脳は、世界平和と繁栄を追求する。

一、首脳は、日韓共同声明の骨子は、韓国の経済社会五カ年計画に可能な限り協力する意図を表明する。

一、首脳は、大統領の間にホットラインを開設する。

1.17 訪米

日米争闘戦が一層激化 - 日米安保の再編強化と独自の軍大化・改憲への全面突入狙う 中曾根

一月十七日より開始される日帝中曾根と米帝レーガンの首脳会談は、戦後の日米関係を大きく転換し、日本と世界を一層激しい戦争的激動の中に引きつり込む危険な突破口となるうとしている。この「日米会談」の背景をなしている情勢とりわけアメリカをおおっている今日の状況を正確にかんておくことが今きわめて重要である。

【A】深刻なアメリカ経済の破綻と日米対立 今日、全世界をおおう出口なき長期の大不況、財政破綻、日々増大し続ける倒産と合理化と失業……もとよりその例外であり得ない日本帝国主義は「唯一の活路」をなりふりかまわぬ欧米市場への「輸出ラッシュ」にもとめ、他帝国主義の領分を「食い荒す」ことよって息つきをしてきた。

一方、戦後世界の資本主義体制の屋台骨を支えてきていた米帝は最も集中的な重圧の中で、最も深刻な破綻にぶち当たっていた。……

(以下次号)